

# 学力向上は日々の授業の充実から

～ 分かる喜びや、考える楽しさを実感させる授業をめざして ～

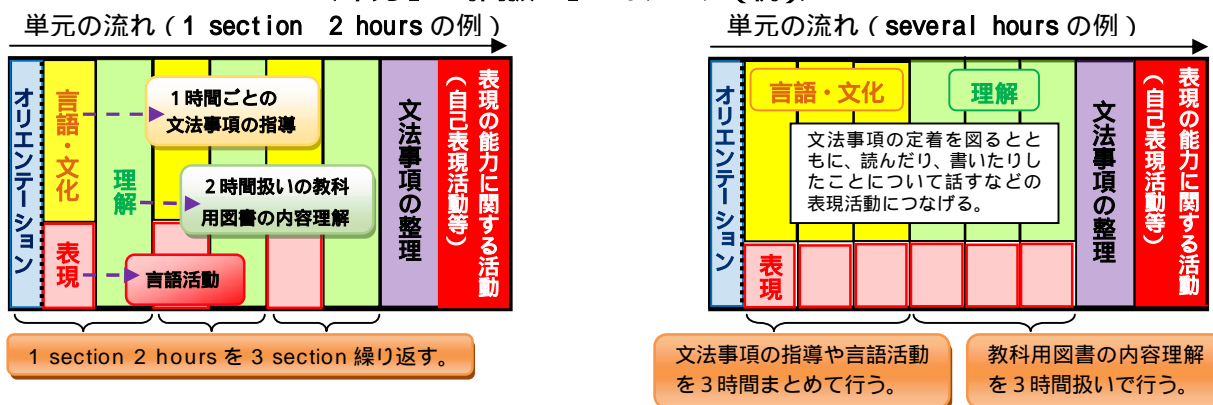
みやざきスタイルの英語の授業

「言語活動の充実を通して4技能を総合的に育成する」授業

ポイント  
1

各学年の目標を踏まえて、単元の指導計画を立てる。

〔単元【8時間扱い】のイメージ(例)〕



単元の指導計画は、各学年の目標や「CAN-DOリスト」等を踏まえて、適切に定めることが大切である。また、生徒に単元の見通しとゴールイメージをもたせて学習に臨ませることが大切である。

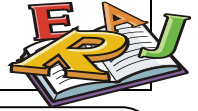
\* 「4技能」・・・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の技能

ポイント  
2

1 単位時間の授業の中で、ねらいを明確にし、身に付けさせる技能を中心に生徒の主体的な活動を展開し、ねらいに対する一人一人の達成状況を確認に見届ける。

授業で心がけたいこと	
導入	<p>「Today's Goal」を明確にする。</p> <p>小学校外国語活動で学習している内容を把握し、小・中学校の系統性のある指導を行う。 この時間に<b>何ができればよいのか</b>を生徒にしっかりと理解させる。 Oral Introduction や絵・写真・ICT等を効果的に活用し、<b>関心・意欲を高める</b>。</p>
展開	<p>4技能を総合的に育成する指導を充実させる。</p> <p><b>複数の技能を関連させて指導することで</b>、4技能を総合的に習得させ、コミュニケーション能力の育成を図る。 <b>必然性のある英語の使用場面を設定した</b>コミュニケーションを行う。 「思考力・判断力・表現力」を育てる「<b>真のコミュニケーション</b>」の場を設定する。 ・「真のコミュニケーション」とは? = 「伝えたい・伝えて欲しい」等の場が設定してあり、単に型にはめたようなものではなく、その場で考えながら話すような場の設定や仕掛けがしてあるコミュニケーション。</p>
終末	<p>ねらいの達成を確実に見届ける。</p> <p>「Today's Goal」が達成されたかを<b>確実に把握する</b>。 次時の学習内容や学習活動につながる課題等を提示し、<b>見通しをもたせる</b>。</p>





指導上の留意点

小学校の外国語活動において取り組んだ活動を導入で取り入れることにより、小学校の学習を想起させ、中学校の学習へとつないでいく。

- (例) 中学校英語入門期：「キーワードゲーム」、「ポインティングゲーム」等の活動を入れる。  
 小学校外国語活動の教材の活用：「いくつ?」、「道案内」、「レストランでの注文」等でデジタル教材を活用する。  
 小中で連携して：小・中学生の「自己紹介」や「将来の夢」についてのスピーチを録画したり、発表を行ったりする。

文法については、できるだけ日本語を使わずに、既習事項と比較させたり、具体物や多くの絵、例文を使ったりすることで、使用される場面や、意味、文構造について推測させる。  
 その時間の目標によって、「Today's Goal」を示すタイミングに工夫が必要である。

「Today's Goal」の提示の仕方の例

言語・文化の知識・理解を目標とした授業例

- ・ 導入の工夫を行い、使用される場面や、意味、文構造について推測させた後、「Today's Goal」を提示する。

理解や表現を目標とした授業例

- ・ 前時の復習等の活動後、すぐに「Today's Goal」を提示し、ゴールイメージをもたせるとともに、学習の流れ、学習方法の見直しをもたせる。

「4技能を総合的に育成する」指導とは？

コミュニケーション能力を育成するために、複数の技能を関連させて指導することを通して、総合的に4技能を習得させていく指導。

指導上の留意点

読んで書く(例)

- ・ 英文を読んで、英文が意味する単語を書く。
- ・ 英文を読んで、内容を英語で要約する。
- ・ 英文を読んで、感想や自分の考えを英語で書く。

聞いて書く(例)

- ・ まとまった英文を聞いて、メモを取り、読まれた内容を要約する。
- ・ 英語のアナウンスを聞いて、その要点を書いて伝える。

「聞くこと」「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結びつけたり、自分の感想や意見を付け加えたりする場面を、計画的に設定する。

聞いたり、読んだりしたことの内容を、理解にとどめることなく、自分の感想や意見、理由などをもとに、スピーチやディベートを行うなど、言語活動を充実させる指導を行う。

与えられている場面や条件(図や表、グラフ等)から、表現に必要な情報を取り出し、整理して、自分の言葉で表現する力を育てる指導の充実を図る。

少人数指導等の指導を行う際も、習熟の時間や自己表現の時間を多く取るなどの学習集団に応じた工夫を行う。

構造的な板書を心がけ、授業終了後、復習などに使用することを意識したノート指導もあわせて行う。

